

# 問題解決的な学習



道徳科における問題解決的な学習って？

単なる日常生活の問題に関する話合いではなく、**道徳的価値に根差した問題を解決するための話合い等**を行う学習のことをいいます。決まった型があるわけではありません。



## ☑ 道徳的価値に根差した問題を把握する。(→児童生徒の実態把握へ)

日常の児童生徒との関わりの中で、本時のねらいとする道徳的価値に根差した問題を把握する。  
→きまりを守ることが大切と分かっているが、自分の事を優先させてしまい、きまりを守ることができない。

→時と場合に応じて礼儀にかなった行動をとることのよさに気付いていない児童生徒が多い。

※ 道徳的価値に根差した問題を把握するために、事前アンケート等を取り、導入で活用することも効果的

## ☑ 話合い等によって問題を解決する。

話合いの形態として、**ペアや少人数グループ等**が考えられる。

話合いでは、解決方法を考えることに終始するのではなく、自分だったらどのような解決方法がよいと考えているのか、その考えの根拠は何なのか等、児童生徒が問題を自分との関わりの中で考え、他者の異なる多様な考え方にも理解を示しながら、問題を解決するために必要な道徳的価値に気付くことができるような学習指導過程を構想することが大切です。

## ☑ 問題解決的な学習の例

小学校 ピアノの音が…… (東京書籍 新しい道徳6) 「C-(12) 規則の尊重」

### 道徳的価値に根差した問題の把握

休み時間、自由に過ごす権利はあることを知っているが、騒々しくすることで静かに本を読みたい友達の権利を守っていないことには気付いていない。

#### 1. 導入

**児童の実態把握を基に、道徳的価値に根差した問題を自覚させる課題を設定する。**

**お互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう。**

#### 2. 展開

**教材の登場人物である女性とおじさんの自他の権利を尊重するために解決する場面を問題解決の場面に設定し、問題を解決するための話合い等を取り入れる。**

発問1 「裁判を起こすと言ったおじさんの気持ちを考えよう」

発問2 「おじさんにうるさいと言われた女の人の気持ちを考えよう」

発問3 「**お互いの権利を尊重しながら解決する方法をグループで話し合しましょう**」

発問4 「二人を解決に向かわせた思いや考えは何か考えよう」

#### 3. 終末

発問5 「**自分にとって**お互いの権利を大切にするために、大事な思いや考えは何だろう」

### 参考文献

[1] 赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと p172 - 184 東洋館出版社

[2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料